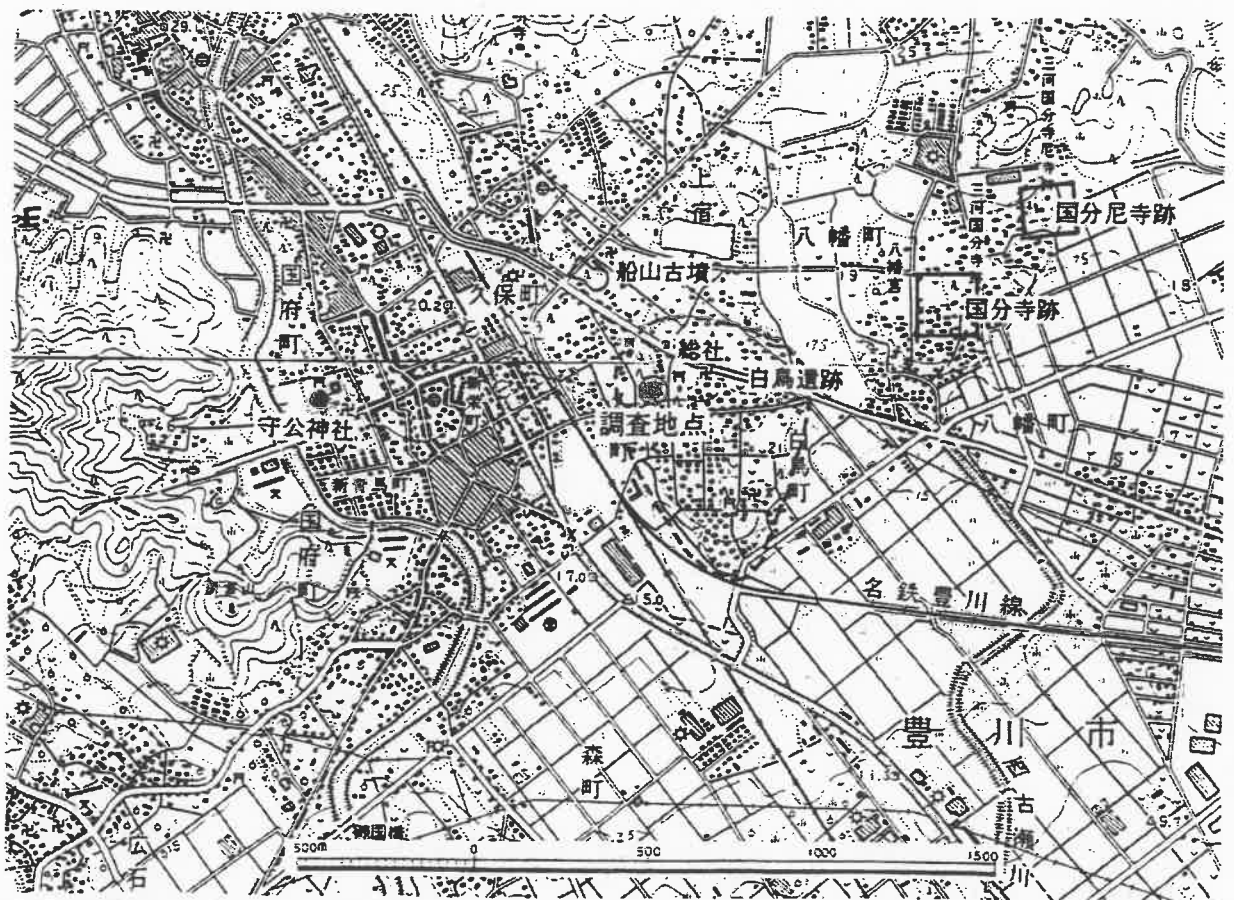
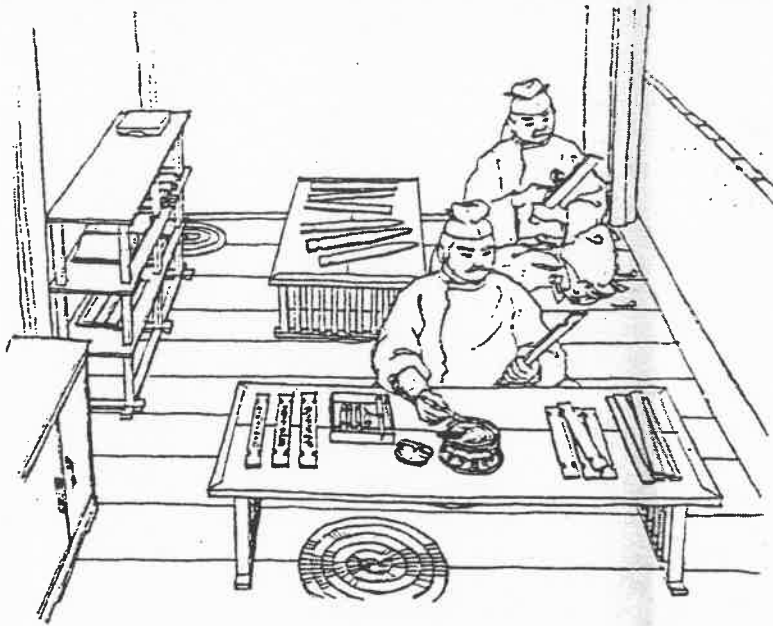


三河国府跡確認発掘調査の概要

三河国府跡の位置については、豊川市白鳥町総社付近の白鳥台地と、国府守公神社付近の周辺の2つの説がありますが、このうち白鳥遺跡と呼ばれる者の方が有力視され、過去にも奈良時代の瓦や土器がたびたび出土したことが知られています。

三河国分寺や国分尼寺にも近いこの白鳥台地は、古墳時代には三河地方最の前方後円墳船山古墳が築かれた場所でもあり、いわば古代三河国の中心地であったと言えます。しかし、国府についての発掘調査は今まで行われたことがなく、その位置すら確かめられていないため、文献ではほとんど知ることもできない三河国府の状況を明らかにすべく、豊川市教育委員会では今年度より三河国府跡の確認調査をはじめました。





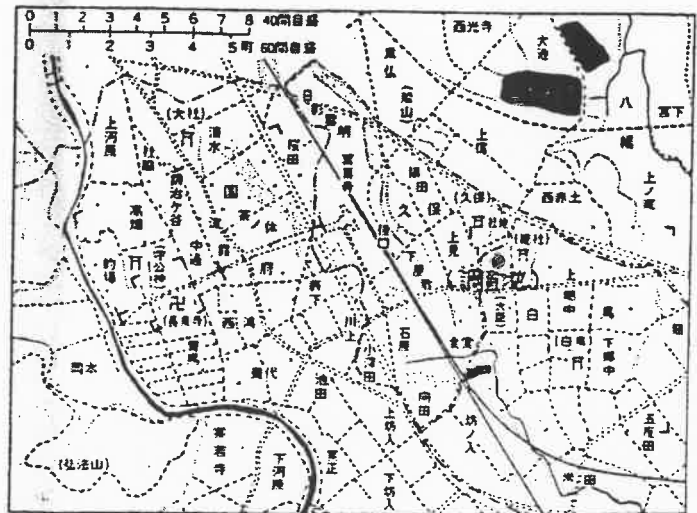
地方役人の勤務風景 古代の地方の役所には、
 税の徴収、中央に提出する政務報告書作成などの
 一般的な行政事務から警察や裁判の仕事まで、
 まざまの業務があった。

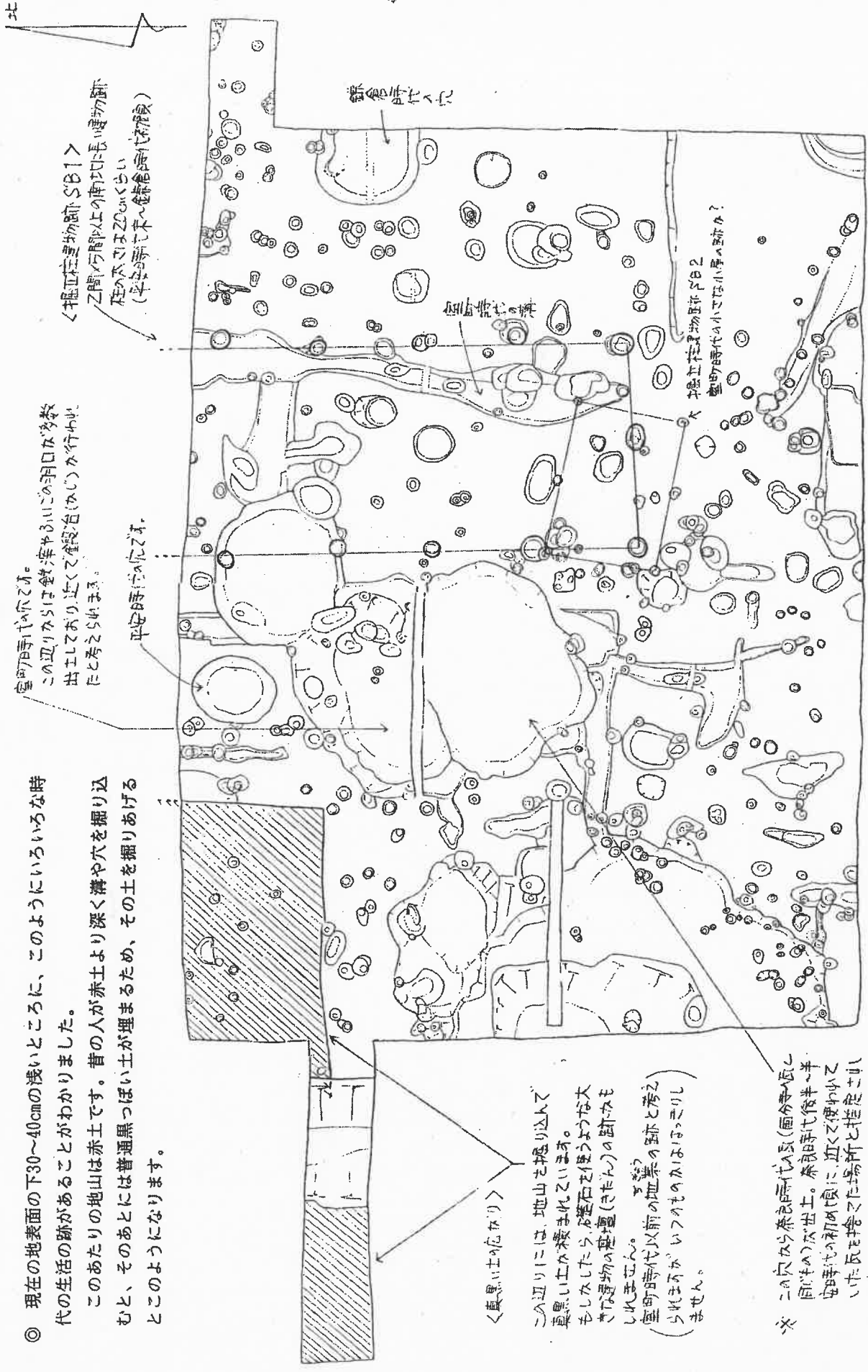
国府(こくふ)とは？

国府は、国の行政の中心となる役所の諸施設がおかれた場所や、そこで働く役人たちの居住区も含む一定の地域をさし、このうち役所がおかれた場所を国衙(こくが)と呼ぶこともあります。いわば官庁街周辺の地域であり、現在の愛知県に例えるなら、名古屋市中区三の丸の愛知県庁周辺に相当します。

この国府には、国庁または政庁とよばれる県庁舎に相当するような建物や、国司の館などがあり、守(かみ)・介(すけ)・掾(じょう)・目(さかん)とよばれる四等官で構成される国司や、その他大勢の役人により国衙が運営されていました。ちなみに上国であった三河では、雑務に従事する人々も含めると、410人近い多数の職員がいたようです。

※今回の調査地点の少し南側の地域は、昔から大臣と呼ばれていたようです。そのほか、この周辺には、上ノ蔵・金堂・下屋敷などの興味ぶかい字名があります。





◎ 現在の地表面の下30~40cmの残いところに、このようにいろいろな時代の生活の跡があることがわかりました。
 このあたりの地山は赤土です。昔の人が赤土より深く溝や穴を掘り込むと、そのあとには普通黒っぽい土が埋まるため、その土を掘りあげるとこのようになります。

土器時代穴
 この辺りからは鉄葉や銅の羽口などが出してあり、近くで鍛冶場があったと考えられます。

土器時代の穴
 乙種土器以上の南に長い溝跡 (平安時代末~鎌倉時代初葉)

〈真黒い土の穴〉

この辺りには、地山を掘り込んで真黒い土が埋まっています。もしかしたら、炭石を使うような大きな遺物の土壇(ミホト)の跡もみられます。
 土器時代以前の地山の跡と考へられますが、いふたのかわりません。

※ この穴から土器時代の土(面分)と同一の土が出土。奈良時代後半~室町時代の初め頃に、近くで使われていた瓦を捨てた場所と推定されます。



三河国高野跡確認調査 全体図 (縮尺1/100)

いずれにせよ、今回の調査は広い白鳥遺跡のごく一部にすぎず、これだけの面積の調査だけでは、この遺跡が国府の跡であると断定することはできませんが、継続調査を行ってゆく上での有力な手がかりが得られ、来年度以降の調査成果が期待されます。

出土した遺物

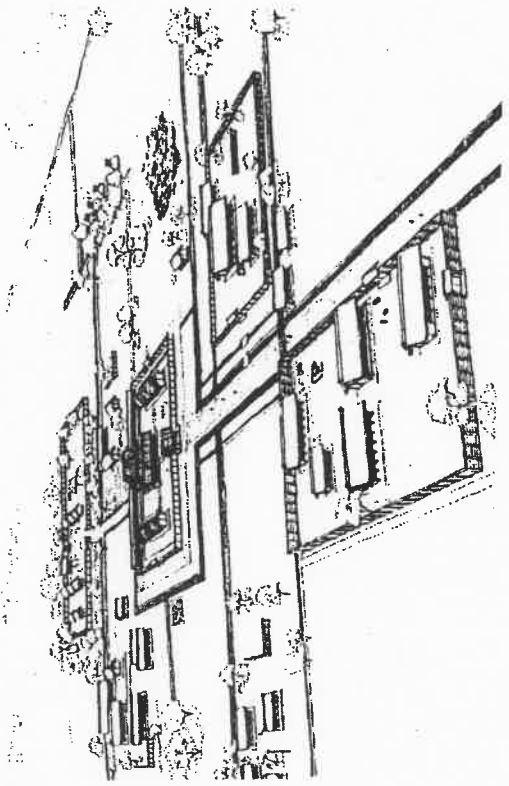
今回の調査では、国分寺で使われた2種類の軒平瓦が出土した他、それよりやや古く、奈良時代中ごろ以前の瓦と考えられる偏行唐草文軒平瓦の破片も1点出土しました。この種の偏行唐草文軒平瓦は、これまでも総社付近で何点か出土したようであり、この地で瓦葺きの建物を最初に建てた時の瓦と推定されます。そのほかにも、今までに総社付近では下の図にあるような各種の軒瓦が出土しているようです。

また今回の調査では、平安時代から室町時代にかけての須恵器・灰陶器・中世陶器・土鍋などの土器類、刀子（小刀）・釘などの鉄製品、鉄滓・ふいご羽口などの鍛冶に関連した遺物、更に古墳時代のものと思われる管玉などが出土しました。



1～3は白鳳時代の遺跡出土瓦の破片 4～7は奈良時代中ごろ以前出土瓦の破片

（*印は今回出土した瓦の種類）



※ 下野国府は、発掘調査の結果により、この絵のような姿であったと想定されています。（中央の区画が政庁、他に倉庫群や各施設がある）

第1次調査の成果

今回の調査では、約300m²の調査区の中から古代より中世にかけての様々な遺構が確認されました。この中でも注目されるのは、調査区中央で発見された瓦の集中して出土した土壇です。この浅く広い穴の中からは、三河国分寺の瓦と同じ文様の軒平瓦を含む奈良時代の瓦が、炭化物と一緒に出土しました。おそらく付近にあった建物が使われていた瓦を捨てた跡と考えられ、炭化物の出土から、その建物が火災にあった可能性も考えられます。

残念ながら、今回の調査区の中ではその瓦を使用した建物を明らかにすることはできませんでしたが、古代に瓦を使用した建物は、寺院や、国府内の政庁・国司館等に限定されることから、この付近に国府に関連した主要な建物があった可能性がかなり高いといえます。

また、基壇の跡の可能なある黒土による地業の跡や、南北に長い掘立柱建物の跡SB1などの遺構も注目されます。

豊川市中心の歴史年表

No. 4

No.

三河守は、768年と772年92回にわたる期間に白鳥を献上(続日本紀)
白鳥(13と11)の地を由緒と、この白鳥献上からきたといわれる。

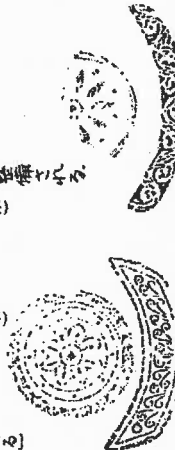
★この頃、五ヶ穴は捨てられた。
★古墳時代の菅三出土

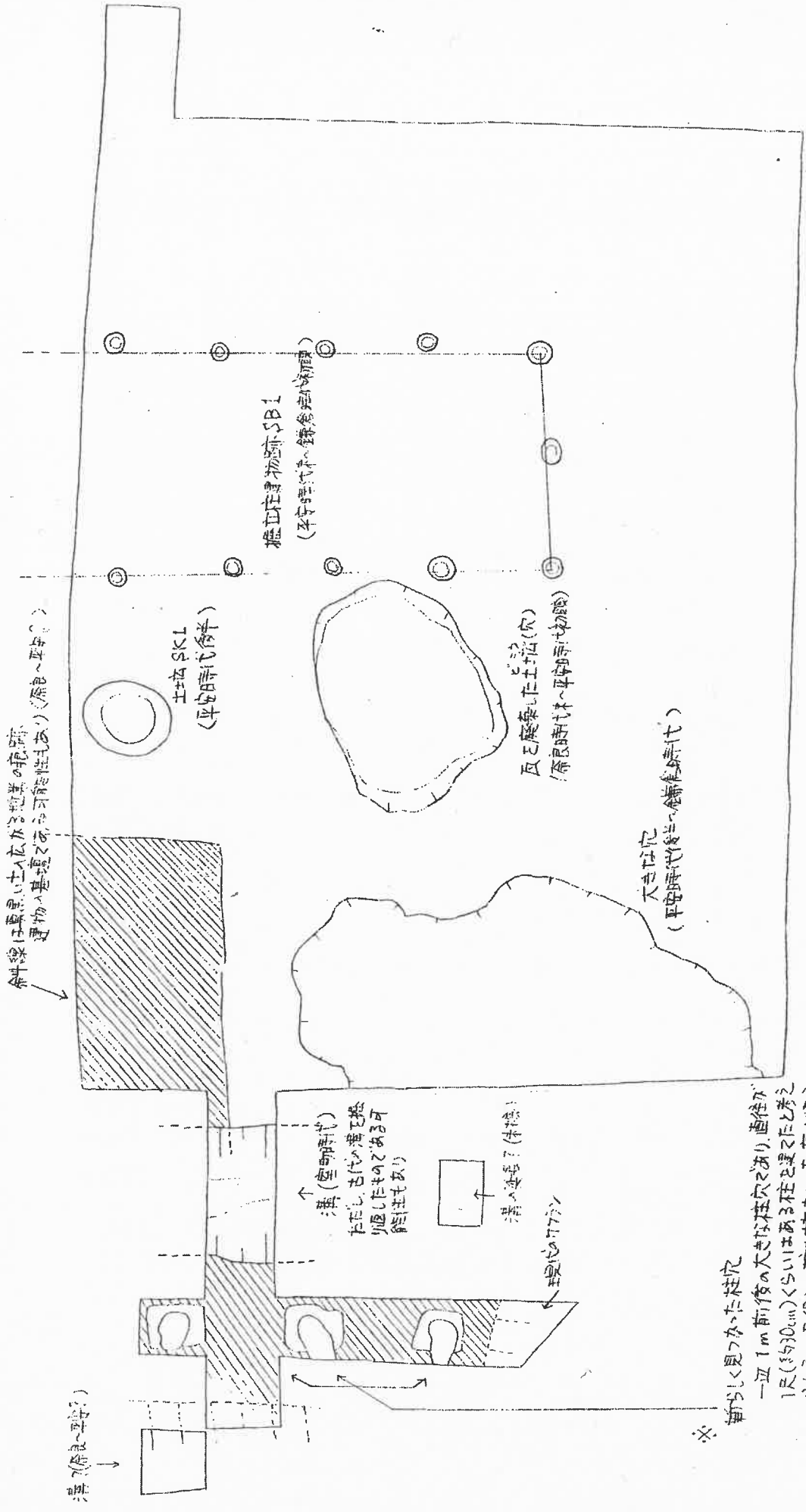
★SBIはこの頃の建物

★この頃、近くで鍛冶が行われた。

鍛冶の歴史は、天保元年(1378)のあたり。

紀元後	日本のおゆみ	郷土のおゆみ
1500	戦国時代 一五七三 豊町幕府はるびる 一五六〇 桶狭間の戦い 一五四九 キリスト教伝わる 一五四三 このころ鉄砲伝わる	一五七五 松島の戦い 一五三二 三河寺三基塔竣工 一五二九 牛久保城築城、牧野成成城主となる 一五〇五 今川義元、牧野白城城主となる
1400	中世 一四六七 応仁の乱おこる	一四七七 八幡宮本殿建造 一四四一 妙蓮寺創建といわれる
1300	室町時代 一三九二 南北朝の合一 一三六六 足利義満、幕府を開く 一三三三 鎌倉幕府はるびる	一三五一 豊太郎と直義方が本野原で戦う
1200	鎌倉時代 一二八五 平氏、奥の細にはるびる。守護・地頭の設置 一二九二 頼朝、征夷大将軍となり、鎌倉幕府を開く 一二三二 承久の乱 一二三三 御成敗式目つくられる 一二七四 女水の役 一二八一 弘安の役	一二二一 足利左馬頭義氏、三河守護となる 一一四八 花井寺、創建といわれる
1100	平安時代 一〇五九 「東鑑日記」できる 一〇八六 白河上皇の院政が始まる 一一五六 院政の乱 一一五九 平治の乱	一〇三四 財真寺に主佛できる 一〇三四 大江定基死す(七十六) 一〇〇九 伴蒿高、東三河の郡司に任命される (平安時代中頃、浄土信仰がおこり、豊川郡部にも仏像が多くみられる)
1000	奈良時代 一〇一六 藤原道長が摂政となる [このころ、藤原氏来る] [国風文化栄える]	九八二 大江定基、三河郡司となる 九八八-一〇〇三 西明寺建立といわれる(九五五ともいわれている)
900	古代 八九四 連降後の停止 八八七 藤原基経四白となる 八八六 藤原良房摂政となる	七〇一 三河守藤原良房が任命される 七〇一-七〇四 三河寺創建といわれる
800	飛鳥時代 七九四 京都に都を移す(平安京) 七八三 藤原鎌足が摂政となる 七四三 藤原鎌足が摂政となる 七四二 國分寺建立の詔 七二〇 奈良に都を移す(平城京) 七二〇 奈良に都を移す(平城京) ★この頃、各所の寺院を整備される。	七二五 財真寺創建といわれる このころ三河國分寺・尼寺建立
700	飛鳥時代 六四五 大化改新 六三〇 第一次遣唐使を遣る 六〇七 小野妹子を隋に遣る	六世紀 西を1-2メートルの小石垣出現する(円墳) 五世紀後半 給山古墳つくられる(地方豪族の墓) 大和朝廷と関係が深かったと考えられる 国分寺遺跡群一帯埋つくられる
600	飛鳥時代 五九三 聖德太子が摂政となる 五六二 任那が新羅にほろぼされる 四七八 倭王武が中国の南朝に使いを遣る	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
500	飛鳥時代 四〇〇 このころ、倭、高句麗と戦う 大和朝廷の国土統一	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
400	弥生時代 四〇〇 このころ、倭、高句麗と戦う 大和朝廷の国土統一	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
300	弥生時代 二三九 卑弥呼が魏に使いを遣る	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
200	弥生時代	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
100	弥生時代	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期
紀元後	弥生時代 この頃から小国家の分立 五七 倭国連年の王が後漢に使いを遣る	三世紀-七世紀 古墳といふ墳墓つくられる 三、四世紀 古墳文化前期





※ 前より見つけた柱穴
一辺 1m 前後の大きな柱穴であり、直径が 1尺(約30cm)くらいはある柱を建てたと考えられる。西側に柱を建てた痕跡がある。

このだけ大きな柱穴は、国府に關連した施設である可能性がより、端もしくは大型の建物の柱穴と考えられる。
(奈良~平安時代前半か後半と推定される)

SB1の柱穴と、大きさを比べた下り。

今回の調査地における古代の遺構 (縮尺1/100)